

387) 心模様

去年の今ごろ些細なことで	僕たちふたり別れてしまった
別れのキスを涙で交わし	闇夜 <small>やみよ</small> の中に彼女は消えた
あれから僕は心ふさいで	空白の日の寒さに耐えた
春の光に夏の暑さに	秋の嵐に孤独で生きた
でも神様は僕らふたりを	クリスマスの夜逢わせてくれた
代官山のカフェエンジェルで	あいつもひとり僕もひとりで
まるでふたりが以前みたいに	待ち合わせでもしたかのように
あいつも哀しいときを彷徨い <small>さまよ</small>	似た者同士心かよった
1年間の空白の日々	嵐のように満たされてゆく
あの日涙で別れた人が	いま腕の中静に眠る
このままふたり <small>まなこ</small> 眼を閉じて	死んだとしても後悔はない
春まだ浅い陽だまりの中	抱き合うように僕らは眠る
迷うことなどもうなにもない	辛いときにも心合わせて
たとえ大地が引き裂かれても	君のこの手をはなしはしない
忘れかけてた思いやりこそ	ふたりを <small>つな</small> 繋ぐ心の <small>きずな</small> 絆
僕ら二人の心 <small>こころもよう</small> 模様に	くらい翳 <small>かげ</small> など来ることもない